令和8年度　目黒区立田道小学校　学校グランドデザイン

Research：各種調査等による実態

【学校の実態】
・児童数368名（R8.4 現在）
・学級数14学級
・教員数21名
（男6、女15）
校長（1）
副校長（1）
主幹教諭（2）
主任教諭（11）
教諭（6）

【児童の実態】
＜四者評価の結果＞
「授業が分かる」の回答が約 93%であり、40分授業午前5時間制導入以降、90%以上を維持している。
＜区学力調査＞
基礎的・基本的な学力が身に付いている児童と未定着な児童との二極化が見られる。

【保護者・地域の実態】
＜四者評価の結果＞
・保護者、地域とも学校への満足度は85%を超える。
＜保護者＞
・教育への関心が高く、学校へも協力的である。
＜地域＞
・学校を会場とした地域行事が多い。

校長の経営方針

【基本方針】
○学力の向上
自ら学ぶ姿勢・自力解決・学び合いにより、自己の学びを高めようとする児童の育成
○豊かな心
自他の違いを認め、相手を思いやり、協力し合う児童の育成
○健やかな体
自分の心と体についての知識をもち、心身共に健康な児童の育成

上記目標の達成に向けて教職員が一丸となって、組織的かつ計画的に教育活動を展開し、以下の四者にとっての理想を現実のものとしていく。
☆児　童・・・集団の中で健やかに成長する。
☆保護者・・・大切に育ててきた我が子の望ましい変容・成長を実感する。
☆地　域・・・教育活動に理解を示し、協力的に取り組む。
☆教　員・・・自らが元気で、やる気をもって取り組み、児童の成長に手ごたえを感じる。

目指す子ども像

◎よく考えて 進んで 行う子
・自ら学ぶ姿勢をもち、自力解決や学び合いにより、自己の学びを高めようとする子

○心ゆたかで 思いやりのある子
・自他の違いを認め、相手を思いやり、協力し合う子

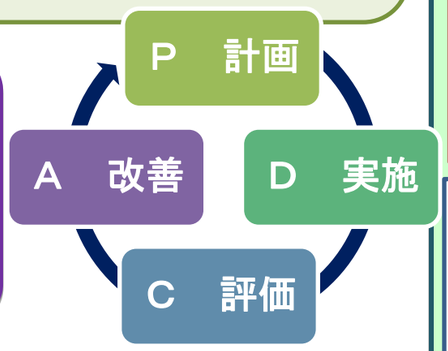
○健康で 最後までやり抜く子
・自分の子と体についての知識をもち、心身ともに健康な子

持続可能な社会の創り手となる児童
学習力・社会力のある子

４０分授業午前５時間制を生かすＰＤＣＡ

40分授業午前5時間制における 学習力・社会力向上に向けた Planning

ホップタイム・放課後個別指導の設定 学習力	・学習上の課題に応じて、テーマやプロセスを自己選択し、基礎・基本の定着を図る学習
教科内探究基礎の設定 学習力	・児童のメタ認知や学習の自己調整能力の涵養を目指した学習スタイルの工夫
総合的な学習の時間の充実 社会力	・地域における体験、交流、貢献活動等サービス・ラーニングを取り入れた学習の充実
田Ｑタイムの設定 学習力	・興味や関心に基づき、自己のテーマを設定した探究学習
DDT の設定 社会力	・縦割り班活動、集会活動等異学年交流等の充実



・授業改善
・週時程の改訂

対象	評価指標	目標値
児童	区学習状況調査（学力）	区の平均値以上
児童	学校評価アンケート	「学校の勉強が分かる」肯定的回答平均値 90%以上
教員	学校評価アンケート	「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている」肯定的回答平均値 95%以上
保護者	学校評価アンケート	「学力向上のために工夫した授業を行っている」肯定的回答平均値 80%以上

『持続可能な社会の創り手となる児童の育成　～個別最適な学びと協働的な学びの実現～』

田道小学校が目指す持続可能な社会の創り手となる児童
①よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする児童
②持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識が涵養された児童

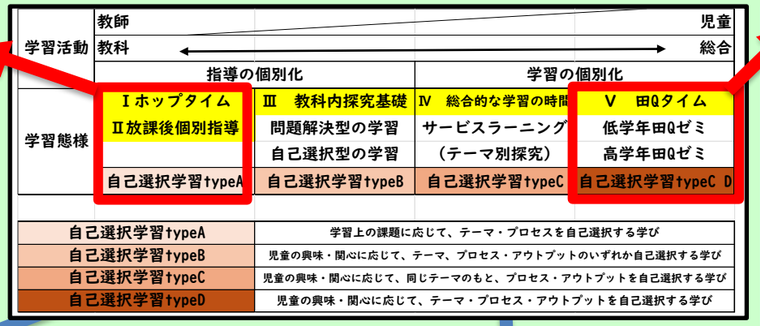
学習力
問題解決に向けて、学んだことを活用し、自己調整を重ねながら主体的に学習に取り組む力
＋
社会力
よりよい社会の形成に向けて社会の事を理解し、主体的かつ協働的に関わる力
→ **持続可能な社会の創り手**

各学年の時数内訳

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	865	925	980	1015	1015	1015
学校裁量	120	81	73	77	77	75
行事時数	42.5	30.5	34	44.5	49.5	49.5
総時数	1028	1045	1087	1146	1162	1161



生み出された時間における個別化された学習カリキュラム



Ⅰホップタイム　Ⅱ放課後個別指導
学習力の向上

一斉学習の内容に対する定着度を個別に確認し、学習上の課題に応じて、テーマやプロセスを自己選択する学び。

Ⅲ教科内探究基礎を通して培う学習力の向上

問題解決型の学習
一斉学習においても、児童が自ら問いをもち、学習計画を立て、課題解決をする学習スタイルを構築する。

自己選択型の学習
児童が興味・関心に応じて、テーマ、プロセス、アウトプットなどを柔軟に選択する学習スタイル。

Dendo 学ぶ１０の姿（学習行動）
・児童の主体的に取り組む学習の姿を整理し、単元のデザインや授業デザインに組み込む。

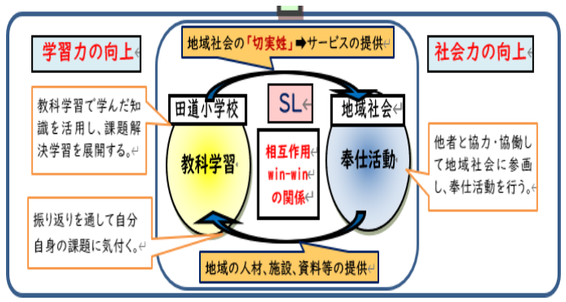
1. 自ら問いをもつ	6. 自分事として捉える
2. 好奇心や意欲が高まる	7. 身に付いた力に気付く
3. 自己調整しながら進める	8. できるようになったことを次につなげる
4. ゴールイメージをもつ	9. 思考錯誤している
5. 既習内容と事象と結び付ける	10. 最後まであきらめずにやり切る

⇒Dendo 学ぶ１０の姿と関連付けながら主体的に学習に取り組む態度についての意思的な側面をとらえて評価に繋ぐ。

学習環境デザイン　振り返り　協働的な学び

Ⅳサービス・ラーニング型総合的な学習の時間 社会力の向上

サービス・ラーニング
教科内容の習得と、学習過程において培う問題解決能力や意思決定等の学習能力を、サービス活動を中心に捉え、教科内容の基礎・基本との関連を図りながら伸長する統合カリキュラム・教育方法論。



Ⅴ田Ｑタイム（探究）　学習力の向上（毎週１時間）

田Ｑタイム
教科・領域内で習得した力を活用して、学習計画を立て、テーマに沿って自立的に学習する。

自己の興味・関心を基に、テーマを決める。
（20 時間の学習）

個別最適な学び

低学年田Ｑゼミ
（１～３年生）
テーマに沿って自立的に学習する方法を学ぶ。

高学年田Ｑゼミ
（４～６年生）
ゼミを選択し、設定したテーマに沿って自立的に学習する。

協働的な学び

ファミリーグループワーク
年間を通した、縦割り班での探究学習の交流の場を継続する。
①対話によるテーマ設定
②中間交流
③田Ｑタイム発表会

児童が主体性を発揮しながら学ぶ工夫
○個に応じた学習過程を支える学習環境デザイン
・テーマ設定の時間の充実　・多様な調査活動の充実
・多様な整理・分析方法の提示

児童が協働性を発揮しながら学ぶ工夫
①学習形態の工夫（ゼミナール型学習・異学年交流）
②対話形態の工夫（教えてタイム・サークル対話）